

開拓記念之碑（知遠別）

（かいたくきねんのひ ちえんべつ）



【所在】

鷹栖町 15 線 23 号

【指定年度】

昭和 5 4 年

【標柱建立】

昭和 5 4 年

滋賀団体の開拓の証

明治 28 年、弱冠 29 歳の谷定徳を団長とする滋賀団体は比布村（現在の比布町）に入植した。しかし、この土地は当麻屯田兵に対する払下げ予定地で払下げを繰り返しい出たが小作権しか与えられず、何とか自分の土地を開拓したいという願いから適地を探していたところ、たまたま猟師であった広田與三吉が知遠別に未開地を発見し団体員に相談して上川支庁で調べてもらったところ、この土地は厚田村の中井米吉の所有地であることが分かり、谷柳助ほか 16 戸がこの地に入植したのであった。

渡道からすでに 10 年が経っていた、持参した金も費やし新たな開拓に挑むには相当の苦難の途であったことは想像に難くない。

まして団体として渡道した者が異郷に 2 つの団体地に別れることは一抹の淋しさがあり、一部に脱落者も出たことはやむを得ないことであろう。しかし、貯水池を設けて水田を造成し馬鈴薯を作付けし、でん粉を製造する事や除虫菊を栽培するなど、根気強い滋賀団体の団結をもって、共に栄えてきたのである。

この地に入植して 30 年目を迎えた昭和 9 年 3 月、この喜びを当時の専証寺境内の一角に、開拓記念の碑として建立したのである。